

令和7年度 校内研究実施計画

鈴鹿市立郡山小学校

1 研究主題及び教科

研究主題	自ら学び続けるこどもの育成 ～考えを伝え合い、ともに学び合う授業づくりを通して～
教科・領域	全教科・全領域

2 主題設定の理由

昨年度の研修では、「対話的な学びを引き出す工夫」として、グループでの交流や学習形態を工夫したことで、子どもたち同士でわからないことを聞き合ったり、話し合ったりする関係ができつつあるという点で、成果をおさめることができた。またグループでの交流や活動をする際には、「誰一人取り残さない」ことを教員、子どもともに意識し取り組んできたことで、周りの友だちを気にかけて学習に取り組む子どもが多くなった。一方で、自分の考えが言えない子、自分の考えがあっても多数の意見に流されてしまう子などがいることも課題が残った。

今年度は、研修テーマを「自ら学び続けるこどもの育成」とし、研修に取り組んでいく。「自ら学び続ける」とは、子どもが自らの学びの目標を決め、その目標に向けての学習方法や誰と学ぶかなど自ら選択して学習を進めていくこと、また学習後自らの学びを振り返り、次の学びへとつなげていくことである。学習方法や誰と学ぶかなどを自ら選択し自分のペースで学習を進めることは、自分の意見を持つことにつながり、昨年度の、自分の意見が言えない、多数の意見に流されてしまうという課題を解決する手立てとなると考えている。また、誰と学ぶかを自ら選択していく過程では、「協働的な学び」という視点も大切にしていきたい。「協働的な学び」は、グループで交流して新たな視点を得るなど自らの学習を深めたり、自ら目標を決めることでより積極的にグループでの話し合いに参加できたりするなど、「自ら学び続ける」姿勢と密接にかかわっていると考えている。

教科・領域は、全教科・全領域とした。「自ら学び続ける」姿は、特定の教科のみならず、どの教科・領域においても目指すところであり、これからの社会を生き抜くためには不可欠なものであるからである。

自ら学ぶこと、協働的に学ぶことをバランスよく設定し、自ら学び続けるこどもの育成を目指していく。

「自ら学び続けるこども」を以下のように設定する。

低学年	「学びたい」「知りたい」という気持ちを持ち、意欲的に学習に取り組むこども。
中学年	課題に対して、目標や学習方法を選択し、自ら学びに向かうこども。
高学年	課題に対して目標を選択し、学習方法を自ら考え、学びに向かうこども。自らの学びを振り返り、深い学びにつなげていけるこども。

3 研究内容及び方法

(1) 学びの目的や意図、ゴールを明確にする（主体的な学び）

- ・ルーブリック（S）（A）（B）を提示する。
- ・単元全体、本時の見通しを持たせる。

(2) 学習活動

- ・ICT機器を活用しながら、自らのペースで学習を進めさせる。相互参照の活用。（個別最適な学び）
- ・適切な場面で協働学習をさせる。（協働的な学び）

(3) 振り返り

- ・学習内容だけでなく、自分の学び（学習方法）を振り返らせる。（学びのアウトプット）
- ・「次の学習に生かせそうなこと」についても振り返らせる。（深い学び）

(4) 基礎基本の定着

- ・ドリル学習など、基礎基本の定着にも力を入れる。また、「読む・書くワークシート」や「よむYOMUワークシート」も活用する。

(5) 図書に親しむための環境づくり

- ・環境整備・ブックトーク（図書巡回指導員）また、郡山タイムの月曜日と金曜日を朝読書の時間に充てる。月曜日には地域のボランティアによる読み聞かせを各学年定期的に実施。

(6) 体験学習・出前授業

- ・子どもたちの興味・関心を引き出す。
「知りたい」「学びたい」気持ちから目標を自ら設定できる。

(7) 綴り方

- ・成長した自分やなかまの姿を見つめる。

(8) わたしの学び確認シートの活用

- ・主体性や自己調整力をつける。

(9) 情報活用能力体系表の活用

- ・情報活用能力を育成する。